

西鶴集

七

西鶴織留を於人伝

西鶴傳

目錄 六



一 官女乃梅之氣

世よつまこくればあえん乃梅  
あやまそはくはく男はのん

二 時を望む被拘

世のうーんはとまこくの時を望む被拘  
ふれつうぬあはあはあ乃

三 子と母の親仁

世の人々知れずと竹竿を  
乳母のくち我まきと云ふ

四 千貫目如阿の得と

世々みみあわれぬ其月と云ふ  
乳母のくち我まきと云ふ

一 官女乃らりり氣

世よわ家持のなりひとて園りれ氣屋邊人後すゝゑて  
別せよと世が氣のりり死人の云ふせりかたは  
万事に氣のりひとせどお家お火成焼まや後海の家  
系もや一切れ人召運と天にま神傳成てはりまはれ  
色死の氣生よりり定まりきとつと此事ども用ひて  
身と乃が何と夕と其のづれ長命は後病死と云ふ人乃  
部ななりとんた大なるおどくは地震神傳の則と番道  
はぬくませお氣尾れ三階作つと重くは天井幕と強て  
四方小堂の養つとて純強よ名書成徒掛いおびりれ  
新編のより奥の書は小入らせ給ふと前及ハお爲女房とら  
おつめて氣を神傳成後給ふとひ新と清ななりあは

高人あはれの瀬とわさひても夕れ櫻をのぐれと佛のぬきひ  
あひよふ業うごころふ事一あらず思ふに何れは息引死よ  
何れも用ひたごころ。世下の人間まれば引とりとれ多し樂  
えに年内を暮しぬれば文多あしあしはるまじく女中全  
無目とや一かぬ人の息女にして若くも世のせうし事  
とらざらば身れあめざらりよ官女のまゝまひとる事ひ  
給たれもそのまじびとてお琴や和歌にみまふ。むれ時がの  
その夕月お祭に身とそめ。かひを意程のわあく。一生は海  
の如く舟の中に舟ののまごこと多行つて夢うらふごと  
何罪もあらずもなく。流しをくらとてみまふと志らる所  
地のもしれ地中人よあひんねど今時のせらある事人  
女乃こもやんくなどれ始末らうらとにこなるりしに。

う家清前ふらうあさけ。若の房とせし。人極は細  
まは古甲のにとらと化彩ひらりわりてお野れ神代煮  
らまて乃下向所。翁のまき御目おめづらしく。若衆の  
まごらとあまがらぬる御陣れやりと通きし。つぎく  
れ男祇樂儀の卯によぶとこ。神尾をわらわく今存ひ  
出。虫付うらふて是ふ志らうくとる。若て又祇社よりぬ  
今儀のらとませし。門あまおそく。軒は体あぬ。びりり。摺  
脚れやとこさへて下女ひとり。ゆりふとらさけまじ。ま  
だ年若あは肉親がほお。海御をうらうらたを。して若  
茶とそら久。後候のらあ。と若衆して。我夫とひて。あま。風  
情わらう。中。あま。若。花。り。して。うら。げ。お。足。を。延。て。る。うら。  
そ。あ。ま。の。と。ゆ。ら。う。と。と。ま。ま。う。我。宿。の。ゆ。ひ。出。は。あ。ま。を。わ。ら。ぬ。ふ。



くろくさ... けり。町人... 果報... あり。...

うさなり... 左靴... 遠不... 男入... びの... 中... 身... 花... 志...

云々紫雲の公元田人等と女を養ふと云ふ事人の徳は事々に  
さし是れは徳の有りたる事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
等縁者の上包と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
にて年々公元田人と世にさしぬせこの女と物とをわしあ  
ひひぬせしむる事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
ぬび女のくかりぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
ゆく此の人を世にさしぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なり  
なれぬと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
一はゆかりの世にさしぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なり  
主人の御にさしぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
ぬのゆかりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事

二 時色堂の被抱

申通て女とて世にさしぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なり  
きうぬへいづともも六指目が世にさしぬせぬと云ふ事なり  
孫さしぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
奥板のおかきぬせぬと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
勅めけしむと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
つるらと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
ららと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
何やるはつと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
女の風貌も物なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
けで名なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
くて人の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事





拙者よせり人のあはれを頼みしと拾うるに身を成さずと云は  
こゝろをこまきつりて後云付となすこと無にゆくも今も  
おぼしむ所りもねはらふに故を我も人の好む風俗にて  
後居にゆく拙者ありつゝも南無とて内々もさきう向  
時おはなすおぼしき所多く真なることおぼしきなりといふ  
たふれながらわたりて前尾は二三名の儀をよめを頼む  
去れし物としめては只事しの腹すはわらず物有ゆへ  
去れしをあらはに別れ別れと別れゆゆりつておくら  
あやむわりの事をもとめんと氣おどくづらし拙者も  
びつりのひつりつて困死くしに最後へ通じしはほりけ  
今とておぼしきありふれいふ人侍御意とすおもひてを  
いふ御出でてはつとぬく文ひよふよははらむにさすて

のひまをうすく候もつゝと就ては御いふ由りつてを  
今よりおぼしき世よきとありて益ありし御いふ  
をととせむとたがひてえももは致候と内渡ぬく御  
アそそとありなり。御いふに男御にたかしくさきと  
と候ふはせむとせむとをりてを御いふ御いふ  
此物といへる世のものなり。内はこと一生連係する  
今より世間の人のおもひくはれをいへるまきさ人  
ともつゝひれ者よんは御いふと御いふと候ふ人  
とく合点してたがひとせむとを御いふ  
いふことせむとをいふに迷はる御いふ何れと御  
付たりも候も御いふとありつゝつとありつゝつと  
なりて果てに杖と拙わつらうらははと候ひたり候ひ

おとこさとそうらひの事ならず。おとこ七歳より内侍の儀はなま  
 をおぼらひなりして若者と称され、進んで茶をたのみ、礼もいふ  
 のつうに、お男をそれざる。若も後、大我と名する。乃、物と  
 名つけし。つらむと、余はの子をけりて、たすむと、おとこさ  
 申そ。おとこの名は、おとこ、大我と名する。おとこ、おとこ、おとこ  
 おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ  
 のまらびの事せむ。おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ  
 ろけらるる事。おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ  
 たるづう、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ  
 けそ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ  
 御も、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ  
 もの、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ、おとこ



まてをむくのうらと改めたるまじり給八柱目何事か上  
 陸此等々とも成子足れ入用由て費用とらに足らぬ  
 一此家の乳母とてと主人一年に乳二旨早み交種は定まり  
 て入ぬるり是れ中より女房此乳を呑せたる中よりいさ  
 人の内儀を七公より給ふ存まるとせとせれはは極ま教ふ  
 物見給と化りて我男はとわきをれは極まはとらる  
 此れは極ま極の業の管もせざらり此れより子とらりけり  
 我も不御てありぬるれ也と干して歎ひをのづらに極ま  
 子ら身のおと忌の樂とは思ふと何の因果に今やなご  
 長は如くは極ま極くぞれはら身と捨て居り又玉寄極ま  
 ちの極ま極乳保とて良とてと名とて又わきと極まり下子  
 子と極まて極ま極まてありく事とらりみける公此世の

女のん奢にのつきていふもあぞなりけり  
 定なれたら常懐胎より身とあるみと子と極ま極  
 て世と去り一毒女とら身は極ま極まらり一が極ま極  
 たりて此行と世と又是より卯不何々わきと一されはと  
 後世とよのぼ人をも極ま極極して子らありて交種  
 につらり一又の乳と交種は二時とてまのよせざらり一  
 此の極ま極はも極ま極も消へぬら死と思ひ出りて  
 うそを極ま極と極ま極と極ま極と極ま極と極ま極と  
 かせし一いまご二月と極ま極よいつつと極ま極  
 て極ま極も極ま極一極ま極つて極ま極極ま極極ま極  
 悲れを乃人れんそ一いまご極ま極極ま極極ま極極ま極  
 乳の不自由さ極ま極と人々世のふとらりて極ま極極ま極

への港へては青いあけの紅ならずと抱くと迷惑あつてもあ  
 せやすくふえしうらたうそそへ金銀とや。なるきよきんかき  
 ぬらうといふそを金佛とや。とてと私が金其あつたさ事此わら  
 ぬじまが抱て難波橋のとうろとんとを何れと死るが身乃  
 せりあさよらましくあひくとも内がうはえて今と玉像と様てを  
 うらぬきまうしはる行くと作念の事とと又一口と子うーを  
 とと東ら他瓜實の子肉してとらふうらたとらう火焼て厨  
 ぬれむいふ年あつたこととそ男れあつた女唐行とやうり  
 かりして朝夜に門まして是はお摩ますとよく辨る  
 て定使にうとまよめて先火瓜とと。産まらううーを  
 御とまぎり擲て女れとる事うううを何れと連てゆり  
 又産む乳もいふお歌とて東もまぐうう産をせと何れ

日ハ千看洞そつうりーゆましくれんよなわぬ貪はく乳のなき  
 子とそそそと心と世よ思ひ乃様ぞうー

三 子と母の親仁

町人よそと世盛乃家よお生こも子よお生れままりり  
 各別世果れぬぬり。ん乳母抱娼とて二人まで氏とそ  
 由てと吟味して家久これ年あつと擧に付てかりふと小荷  
 ぶつりそとをさどかうぐらう一指をけせす肌やうぬ物成  
 ぎんそ食物と給と白粥は飛魚さうこれ卯の毎日改めぬハ  
 枕よ後者役人と付襦袢のぬくと敷と吟味し。屋敷にそ  
 れは昔月ひひと若者同と形く足まる。事むお事うづく  
 以ふまをもほつふそのあまふもの馬退船の乳の令  
 せどが腹あつたゆうそへあそ影ひまさと産まうとすうんとも

ちよふにさうしむを明日のいと進歩するにむせぬけり  
 此の事といふ事若し松と云ふまうけまのうらな事ぞ  
 此種乳母は少くなく人とならば大なる世帯に下子大  
 男定めておもりはゆるくを中蔵は産後乳のむせよ  
 胸せておれりさなきとくははのむせよ  
 お子おつまでの佐佐の乳母ははるかたど月乳母を甲寅  
 に彼處より進んで乳母九事しと松屋より移るは  
 諸物のはたはた中や付れつとまんとなく細めは乳母  
 ねたなりあまきばもとのぞうし

至りて乳母ある物乳母は年かまひしは佐助のうら  
 二三日も過乳して人なむと借して抱ひはまごも明  
 めと出つとちりく乳人らうくもせ胸胸あひてかき  
 乳とららるるは日々われまうたは乳母

乳とららるるは日々われまうたは乳母  
 乳母あるまうしてと乳と細く借して抱ひはまごも明  
 めと出つとちりく乳人らうくもせ胸胸あひてかき  
 男あれはあやうり叶あらしと佐助はあつとまごも明  
 めてきう乳母は借したるは乳と細く借して抱ひはまごも明  
 めと出つとちりく乳人らうくもせ胸胸あひてかき  
 乳とららるるは日々われまうたは乳母  
 乳母あるまうしてと乳と細く借して抱ひはまごも明  
 めと出つとちりく乳人らうくもせ胸胸あひてかき  
 男あれはあやうり叶あらしと佐助はあつとまごも明  
 めてきう乳母は借したるは乳と細く借して抱ひはまごも明  
 めと出つとちりく乳人らうくもせ胸胸あひてかき

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter 'D'. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter 'D'. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Vertical text on the left margin, possibly a page number or reference mark.

わく幸く多くわく事有りて船中より一舟なり  
 めづきれ男は字を同じ。貪むといふことひと女あり  
 て月日とあつらふ家よ。孝順く子とあつらひて姉  
 と卵をあて子に世のまぬらふとがり果て交るる世に  
 ろりて後二今とあつらふとあつらふ（送）  
 後一日つ延てを子に我とよと只ををひぬ息せりて  
 隣のかしらつあせらうして。公やうなり耳付仕合れ  
 りし月の中と世のめくあそむせとゆふ公をせといふ子  
 令よりくぐ公非れ柳を別て妻あ湯らうして。影山ひき  
 む子にけいかど流やまよとあつらふとあつらふ同家内  
 ねらうと。そよと今まて隠らうと事やわろそれ程の乳か  
 しどらた玉勤めをね付て妻あ湯らうして。妻あ湯らうとあつらふ

ううとわく。あつらひしゆれらうと。後二今とあつらふ  
 と。中にもつらふと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 て。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 ちかろ。さりと。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 さつ。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 別。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 後。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 ね。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 ね。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 し。あつらひしゆれらうと。あつらひしゆれらうと。あつらひし  
 身とはななりぬ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly stained paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter 'S' and ending with a period. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is written in a dark ink on aged paper. The text is organized into several lines, with a prominent initial letter 'S' at the beginning. The handwriting is consistent with the style seen on the other page, suggesting it is part of the same document or a related one.

51

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific reference, located at the bottom of the page.



四 千五百の時の源

執く樹つた商人と權の本分限とを分ちしむるを成る  
 一載のうしぬ旗上。非理法權天は五字と書きしむ。  
 義と重く死とせり。非の理法を以てうらむるに法と  
 ありてうらむる權とを以てうらむる權とを以て運たま  
 を救なりとていふに權と得る方との事あり。權と  
 人回す家ふる由まで通はく。さたす土農工商の  
 ぎに法の守りたり。それよそあり。商業とあり。世  
 由りさ事しかり。樹きども今世の人心を以てし。親  
 よりゆくりあり。小者もや。やうり。權は義成。徳ひて。成  
 息也。よは。徳成。本と又。其。服。本と。成。之。以。身。に。人。有。り  
 より。さ。事。と。ぬ。て。え。そ。も。ぬ。を。う。あ。ひ。た。る。法。成。成。六

何より。次を。通と。て。後。世。を。け。り。を。商人の。心。  
 たり。は。も。と。も。古。代。は。銀。が。銀。を。う。け。も。成。せ。と。が  
 て。利。発。せ。え。も。の。より。も。常。俸。乃。者。れ。徳。と。成。り。人  
 此。利。徳。を。得。り。時。代。も。か。ろ。今。の。終。至。所。通。一。軒。と  
 あり。て。成。る。は。あ。れ。の。う。ら。む。り。に。う。ら。む。り。と。成。り。と  
 あり。も。あ。り。り。と。又。い。所。代。も。も。も。の。海。で。も。中。系。に  
 任。り。き。て。世。方。沙。汰。も。も。く。ま。付。人。れ。を。徳。と。見。る。ひ  
 誰。指。目。す。る。も。は。あ。く。に。自。然。と。し。海。川。の。乃。を。是。久。ぬ。  
 是。と。成。り。や。り。人。が。う。も。卷。角。位。あ。よ。う。成。り。り。同。一。系  
 に。あり。て。も。妙。が。少。少。乃。針。金。の。糸。子。を。か。り。へ。舞。錐。の。世。に  
 く。年。完。れ。あ。け。れ。分。切。れ。付。め。小。年。中。の。海。あり。海。あり。海。あり。  
 橋。通。え。り。お。終。ま。る。終。ま。る。と。七。日。の。祇。園。の。山。陣。の。を。

梅つゝあゝんふ事も何く。素麴搦凡の事と各あり  
かゝれ物とげりりきおむすののほ。同一ののほ乃  
子の者ゝ死にせせは。今十月廿四日。其日  
として揚屋極めく。呼ぶ。又々茶屋より一日あそびと  
一。ほるひ。風亭を素人とあひ連て。一歩一歩の備  
後して山乃後る。其日せ々。いまま。年。其小者あり  
どこでこゝね。谷と城。して来て。たふつ。あ。そのほ  
けり。同一。せ。せ。ら。に。紙。今。金。紙。と。絶。え。よ。と。し。も  
然。石。目。や。之。石。目。私。の。と。こ。あ。ひ。あ。て。の。う。け。た。れ。ど。建。代。の  
時。の。あ。り。に。も。あ。り。と。お。つ。ひ。控。々。ん。と。又。針。屋。に。来。子  
が。お。門。敷。れ。親。里。へ。五。五。分。の。紙。と。と。と。ひ。包。紙。の。十。又。づ  
と。海。て。ま。女。へ。う。い。お。う。も。が。あ。一。生。れ。お。ひ。は。細。布。地。お。え

ど。一。お。け。や。と。思。あ。う。り。れ。ん。各。別。世。界。の。人。を。せ。ひ  
の。あ。り。も。り。も。の。ち。あ。り。近。年。紙。限。よ。な。り。お。子。細。と。ま  
に。を。あ。ま。り。代。わ。り。て。お。お。う。と。う。た。ゆ。な。り。又。家。業  
と。家。の。極。み。お。う。人。と。ま。い。ど。是。又。を。あ。れ。も。代。り。も。は。は。と  
申。な。り。ひ。う。一。の。若。の。と。う。て。死。に。利。と。ゆ。く。ら。も。は。は。の  
あ。い。ぬ。う。と。う。と。な。り。是。と。ゆ。か。た。金。に。お。ん。け。あ。り。さ。れ  
た。お。れ。今。紙。と。各。人。の。物。よ。り。ぬ。ま。を。う。し。時。乃。毎。月。と。指  
至。物。見。持。具。あ。あ。と。ひ。年。限。の。け。り。く。ら。も。あ。り。と。ま  
紙。の。形。の。強。さ。を。あ。い。に。ひ。代。り。云。分。と。世。に。お。紙。押。と。の。ひ  
あ。れ。と。く。小。茶。中。あ。あ。け。て。世。よ。も。度。不。志。て。あ。う。海。と  
あ。り。紙。押。と。の。ひ。で。お。費。同。の。事。と。指。が。喉。に。と。ふ。と。呼  
い。ま。て。同。れ。な。れ。女。房。よ。お。判。の。志。満。ん。か。り。そ。を。お。れ。親。と

西鶴  
留緋



西舞  
舞臺



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a play script or a commentary on the scene above. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It contains approximately 15 columns of characters, including kanji and possibly some kana or symbols.

にそかりり一人もそ身なるは世より入りあらず。  
そ人の身ととてく世内は何人今身ととて家ととて  
是にまゝなせんと家に盆正月二夜の幼定漸  
申如も。世改めく家と改めて毎月晦日に毎月あへど  
やむ。物毎せり。とて世より入りあらず。とあり。次  
む。つら。一。高ひの位掛れい。海なくをのり。親との  
高貴づらに。うら。つ。て。世。の。も。世。な。く。も。身。に  
ぬめ。ぬ。も。か。事。な。り。改。め。け。ぬ。の。先。く。へ。自。然。の。付。律  
して。世。は。備。而。成。る。る。り。今。時。れ。事。な。り。世。に  
世。上。の。あり。き。海。と。ん。に。も。親。く。こ。の。身。は。後。人。の。世。に  
め。つ。つ。ひ。れ。者。も。も。我。世。と。し。と。勤。め。利。徳。と。ゆ。る。事  
小。世。改。せ。す。世。人。肉。體。も。つ。ま。り。時。安。ハ。世。の。を。さ。り。た。て

とわらふ。ひ。代。々。な。り。て。世。に。つ。ぬ。ぬ。家。を。れ。だ。と。を。ま。く。よ  
奢。分。教。あ。ま。り。ひ。小。か。事。程。な。り。蒼。角。下。へ。八。を。あ。り。し  
の。つ。ひ。な。り。と。も。つ。つ。と。も。人。南。貴。に。も。ま。り。た。と。付  
銀。子。の。費。目。の。程。な。り。時。を。年。又。十。三。日。で。大。病。と。後。死。に  
た。て。付。時。一。子。十。九。歳。な。り。ま。り。我。お。果。て。の。満。ち。て。何。り  
よ。一。次。高。ひ。る。や。む。む。一。は。銀。多。く。か。事。十。ヶ。年。ハ。な。り  
海。に。十。費。目。より。上。乃。家。費。より。卯。に。何。方。へ。借。を  
事。な。れ。と。ひ。代。と。に。そ。ま。く。の。銀。子。と。せ。あ。え。や。う  
乃。此。中。に。く。ま。ま。て。後。に。な。り。は。家。情。を。け。ま。と。と。も  
こ。の。此。中。の。費。目。より。上。乃。家。費。の。人。公。より。ま。り。と。勤。め。ぬ  
し。と。世。改。して。す。世。と。ん。に。ひ。子。の。代。は。今。世。に。金。を。あ。り  
ぬ。り。一。身。と。も。か。事。な。り。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, slightly stained paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

通河 通河

大友 大友

那安 那安

川 川

正德二壬辰年八月吉日

岩山齋徳堂

大坂書林

大塚屋権左衛門

油屋与兵衛



板 用

正徳二壬辰年八月吉日

大塚屋

五十一

大塚屋

110X  
502  
6